



THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

2018年(平成30年)

# 日 産 工 業 新 聞

## 8月7日 火曜日

第19484号

発行所 日刊建設工業新聞社  
〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10  
電話03(3433)7151 https://www.denn.co.jp/  
©日刊建設工業新聞社 2018  
印刷所 電話03-3433-7151 mail: ad@denn.co.jp  
電話03-3433-7152 mail: sa@denn.co.jp  
電話03-3433-7154 e:ryo@denn.co.jp

### 明治維新150年と治水の歴史

竹林 征三

#### 〈23〉 沖野忠雄・わが国治水港湾の始祖

物川、赤川などでは放水路中にフランスへ派遣された着工は後回しになった。円は、淀川の治水に生涯をかけてきた沖野にとつて大変な衝撃であった。淀川大塚切れは、沖野が中国出張中に起こった。帰国後、破壊した原因の一端が瀬田川洗堰の操作にあったとして1918年、再改修予算通過後に技監の職を辞した。この世を去ったのは1921年(大正10)年3月。淀川洪水の心痛が沖野の死を早めたといわれている。

沖野の治水に対する思いはその功績からも読み取れる。渡良瀬川や利根川、荒川、淀川といった河川でも多くの河川改修工事に携わった。特に淀川改修は第5区土木監督署署長として1894(明治27)年以降、竣工まで陣頭指揮した。1 上川、荒川、渡良瀬川、雄

905(明治38)年から内務省の工務課長を兼務した。沖野の治水に対する思いはその功績からも読み取れる。渡良瀬川や利根川、荒川、淀川といった河川でも多くの河川改修工事に携わった。特に淀川改修は第5区土木監督署署長として1894(明治27)年以降、竣工まで陣頭指揮した。1 上川、荒川、渡良瀬川、雄

機械化工法の採用も沖野の大きな功績だろう。明治に入っても浚渫以外の土木工事は人力に頼るケースがほとんどだった。大学在学

付された逸話も残る。1917(大正6)年に起こった「淀川大塚切れ」は、淀川の治水に生涯をかけてきた沖野にとつて大変な衝撃であった。淀川大塚切れは、沖野が中国出張中に起こった。帰国後、破壊した原因の一端が瀬田川洗堰の操作にあったとして1918年、再改修予算通過後に技監の職を辞した。この世を去ったのは1921年(大正10)年3月。淀川洪水の心痛が沖野の死を早めたといわれている。

参考文獻:『物語日本の治水史』鹿島出版会  
(富士常葉大学名誉教授 風土工学デザイン研究所会)

週1回掲載

(第3種郵便物認可)

土木技師で工学博士の沖野忠雄(1854~1921年)は内務省土木局に所属する技官として、明治大正期に淀川や大阪港などの改修、整備で活躍した。生涯を治水・港湾事業にささげた。1911(明治44)年内務技監に就任。1916(大正5)年からは土木学会の会長も務めた。治水港湾の始祖ともいえる存在で、河川工事の機械化施工を初めて手掛けた人物としても知られる。